

# 難聴学級だより



R7.1.30 No.8  
江戸川区立鹿本中学校  
難聴通級指導学級

高校入試も、いよいよ本番です

三学期も始まって、あっという間に一か月が過ぎました。都立高校の推薦入試が終わり、結果を心待ちにしている人も多いこと思います。

中には、残念ながら思うような結果にならなかった人もいるかもしれません。しかし、これまで何度も面接練習を重ね、一生懸命努力してきた日々は決して無駄になりません。

高校入試の先には、大学入試や就職試験など、再び面接に向き合う機会が必ずあります。アルバイトをする際にも、面接を経験することでしょう。今回の経験は、きっと将来に生かされるはずです。

また、合格はゴールではありません。「終わったから」と気を緩めることなく、引き続き学習にも取り組んでいきましょう。



# 卒業生講演の報告

1月10日(土)に、本校難聴学級の卒業生であるNくんによる卒業生講演を行いました。

久しぶりに難聴学級を訪れたNくんは、背も伸び、少し大人びた表情になっていました。緊張した様子での発表でしたが、「高校生活の特徴」や「難聴学級での生活を振り返って、今思うこと」など、自分の言葉でしっかりと話してくれました。その姿から、在籍当時からの成長を強く感じることができました。講演の一部を抜粋します。



「僕の通っている高校では、入学してすぐに大学入試を意識します。兄が高校3年生なのですが、今も成績について悩んでいる姿を見て、僕も今から頑張らなくてはならないと思いました。中学校での勉強は高校でも大きく関わります。特に国語・数学・英語は、これまで学んだ内容を土台に積み重ねていく教科なので、不安な分野がある人は今のうちに復習しておくとよいと思います。」

発表後には、保護者や在校生も交えた座談会を行いました。「高校の部活動では、顧問の先生がデフスポーツの選手とつながりがあり、交流試合を行ったこと」「英語の定期考査では、他の難聴の生徒とともに、スクリプト冊子（音声を文字化した冊子）を使用したスピーキングテストの特別措置を受けていること」など、さまざまな貴重な話を聞くことができました。

難聴学級担任として、本校を卒業した生徒の成長した姿を見ることができ、大変うれしく思います。在校生にとっても、高校進学後の生活を具体的にイメージするよい機会となったのではないでどうか。

## 入試内容の報告について

校外通級生、校内通級生ともに、入試が終わった生徒からその様子を聞いています。また、今後の難聴学級生徒の進路の選択の際に資料として保存させていただいている。外部に公表することはありません。ご了承ください。